

# 適切な運行の経路及び当該経路における 道路及び交通の状況

ドライバーに対する事故防止教育における国のガイドラインである「指導・監督指針」が改正され、2017年3月12日に施行される見通しです。「適切な運行の経路及び当該経路における道路及び交通の状況」では追加される内容がありません。今月号では再度、I.運行経路における情報を事前に把握することの重要性、冬季に注意を要する雪道（II.雪道での事故発生状況、III.雪道運転での注意事項）について東京海上日動リスクコンサルティング株式会社の進藤恵介主任研究員に解説してもらいます。

## ●ドライバーに対する「指導・監督指針」の改正概要

項目	改正後の追加内容
①トラックを運転する場合の心構え	交通事故統計を活用し事故の影響の大きさを理解させる
②トラックの運行の安全を確保するために遵守すべき基本事項	規定に基づく日常点検の実施及び適切な運転姿勢での運転の重要性を、それを怠ったことによる事故が発生した際に事業者及び運転者が受ける罰則、処分及び措置及び交通事故が加害者等に与える心理的影響を説明することにより確認させる
③トラックの構造上の特性	トレーラーを運転する際に留意すべき事項及び貨物の特性を理解した運転を理解させる トレーラーにより、コンテナを運搬する事業者においては、コンテナロックの重要性を理解させる
④貨物の正しい積載方法	軸重違反を防止するための積載方法を理解させる
⑤過積載の危険性	法令に基づき荷主が遵守すべき事項、運転者等が受ける過積載に対する罰則、処分及び措置を理解させる
⑥危険物を運搬する場合に留意すべき事項	該当する事業者においてはタンクローリーを運転する際に留意すべき事項を指導する危険物に該当する貨物及び運搬前の安全確認について理解させる
⑦適切な運行の経路及び当該経路における道路及び交通状況	改正なし
⑧危険の予測及び回避並びに緊急時における対応方法	注意喚起手法として指差呼称及び安全呼称を活用する <b>降雪が運転に与える影響</b> 、緊急時における適切な対応を理解させる
⑨運転者の運転適性に応じた安全運転	適性診断の結果に基づく個々の運転者の運動行動の特性を自覚させる
⑩交通事故に関わる運転者の生理的及び心理的要因及びこれらへの対処方法	医薬品の使用等による眠気及び飲酒の生理的要因による事故の可能性を理解させる 規定に基づき運転者の勤務時間及び乗務時間を定める場合の基準を理解させる
⑪健康管理の重要性	ストレスチェック等に基づき精神面の健康管理の重要性を理解させる
⑫安全性の向上を図るための装置を備える事業用自動車の適切な運転方法	安全性の向上を図るための装置を使用した場合の適切な運転方法を理解させる

## I. 積極的な情報収集でリスクを想定

運行経路における情報を事前に把握する重要性や運行経路情報については、2016年1月号で解説していますが改めて確認しましょう。

事前の情報把握を怠った場合、どのような事故が発生する恐れがあるでしょうか？例えば、「渋滞予測や通行止めを知らずに運行し、渋滞の最後尾に追突してしまった事故」や「学校が近くにあるルートを登下校の時間帯に運行し、子供の飛び出しにブレーキ

が間に合わずに接触してしまった事故」などが考えられます。あらかじめ情報を把握しておくことにより、事故や遅延の発生を少しでも抑えることができ、安全運行につながると言えます。

「運行経路情報」とは道路事情、交通事情、気象状況などを指し、官庁や各種団体などから公表されています【表1】。

【表1】公開されている運行経路情報の例

道路事情(通行規制など)	・国土交通省「交通規制・道路気象」
	・警視庁「交通事故発生マップ」
交通状況(渋滞情報など)	・一般社団法人 日本損害保険協会「全国交通事故多発地点マップ」
	・公益財団法人 日本道路交通情報センター「道路交通情報Now!!」
気象情報	・国土交通省「交通規制・道路気象」
	・気象庁「防災情報」

出典：東京海上日動リスクコンサルティング(株)作成

## II. 雪道のリスクは大型・中型で大きくなる

冬を迎え、特に注意を要する交通環境として雪道が考えられます。雪道での事故は、どの程度発生しているのでしょうか？警察庁の統計によると14年中に発生した事業用トラックによる交通事故(21,564件)のうち、積雪路面で発生した事故が283件、凍結路面では273件でした。さらに車種別にした場合、大型と中型が約8割と多数を占めていました。

また、08年には貸切バスが雪道を約35km/hで

走行していたところ、緩い下り坂の右カーブを曲がりきれず、5m下の崖に転落する事故が発生しました。この事故で、乗客1名が死亡、22名が重軽傷を負いました※。このような事故はトラックでも同様に起こる可能性があるため、雪道での運転は細心の注意を払う必要があります。

※詳細は、国土交通省「自動車運送事業に係る交通事故要因分析報告書(平成20年度)【第3分冊】社会的影響の大きい重大事故の要因分析」をご参照ください。

## III. 雪道対策は出発前の準備といつも以上の安全運転を

雪道を運行する場合の注意事項について2点確認しましょう。

1点目は滑りやすい路面です。乾燥した路面と圧雪路面・凍結路面で車の滑りやすさを比べた場合、圧雪路面では「3.2倍」、凍結路面では「5.4倍～8.0倍」も滑りやすいといわれています【図1】。スリップ防止のため、冬用タイヤの装着やタイヤチェーンの携行が重要です。冬用タイヤは年々高性能になっているとはいえ、スリップを完全に防げるものではありません。スリップによる追突事故を防止するためにも、車間距離を十分にとるようにしましょう。

2点目は視界の悪さです。視界と降雪の関係を確認すると、降雪量と風速が大きいほど視界が悪くなる傾向にあります※。また強い吹雪の場合、視界が白一色となる「ホワイトアウト現象」になることがあります。ホワイトアウト現象に遭遇してからでは手遅れになってしまうため、無理な運行は避け、あらかじめ安全な場所に退避するようにしましょう。そして、視界確保のためには、フロントガラスの雪を除去する必要があります。冬用ワイパーへの取り替えやウオッシャー液の補充

といった対策を万全に整えてから出発してください。

近年、北海道や日本海側といった積雪地域だけでなく、関東甲信越などでも広範囲で大雪になるケースが見られ、雪道対策の重要性が高まっています。ドライバーに雪道のリスクを理解してもらうことや、出発前の万全な準備と経路や目的地の天候も考慮した対策が重要になります。

※詳細は、国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所「北の道ナビ 冬道運転ガイド」([http://northern-road.jp/navi/index\\_guide.htm](http://northern-road.jp/navi/index_guide.htm))をご参照ください。

【図1】圧雪路面・凍結路面での滑りやすさ(乾燥路面との比較)



出典：一般社団法人 日本自動車タイヤ協会 Webサイト (<http://www.jatma.or.jp/winterdrive/>)より作成